

# 化政文化—庶民の娯楽と信仰

近世社会の進展で生活の余裕が増大するに従って、遊び=娯楽に対する意欲と接触機会とが高まった。この傾向は、祭礼に歌舞伎の芝居を上演するなど、年中行事という固定的な習俗にまで変化を及ぼした。また、庶民の旅行も盛んになった。異郷に赴く旅行は、日常に活力を与えるものであり、一種の通過儀礼でもあった。

## ○庶民の娯楽

### ●多種多様な興行と芸能

都市の空地には歌舞伎の芝居小屋が立ち、落語などの舞台寄席も多く開かれた。

⇒この他、話芸・曲芸などの興行（見世物）が見世物小屋や野外で見られた。

#### <歌舞伎>

歌舞伎では、人気役者とともに次の作者が活躍した。

①<sup>(1)</sup> \_\_\_\_\_ …代表作は毒殺された亡霊による復讐怪談『<sup>(2)</sup> \_\_\_\_\_』

②<sup>(3)</sup> \_\_\_\_\_ …（1）の門下で、代表作は3人の盗賊が義兄弟となる物語



これら歌舞伎は、錦絵や出版物などで全国各地に伝えられた。

⇒村の若者が演じた歌舞伎「村芝居」が、神社の境内で開かれた。

⇒村芝居を通して、歌舞伎の衣服・化粧・道具・言葉遣いが村に伝わった。

### ●信仰と結びつく娯楽

#### <寺社の催し>

寺社は、修繕費や経営費を得るために、次の催しをおこなった。

- ①縁日…特定の神仏の縁とそこにご利益にあずかれる日
- ②開帳…寺社の秘仏・秘宝を一定期間公開すること
- ③富突…主催者が札を販売し、後日抽選して賞金を支払うもの

#### <旅行>

盛んになった旅行には、湯治や物見遊山のほか、信仰と結びつくものがあった。

⇒例えば、伊勢神宮・金比羅宮などへの寺社参詣、聖地・霊場への巡礼があった。

◇伊勢神宮への集団参詣を<sup>(4)</sup> \_\_\_\_\_ と呼称



三河の国学者<sup>(5)</sup> \_\_\_\_\_ は、40年にわたって東北各地を旅した。

⇒その見聞を著した『菅江真澄遊覧記』は、<sup>(6)</sup> \_\_\_\_\_ 学において貴重な資料である。

#### <行事・集まり>

五節句・彼岸会・盂蘭盆会などの行事と、次のような庶民の集まりがあった。

- ①日待…前夜から心身を清めて寝ずに神仏を拝み、飲食をともにして日の出を待つ集まり
- ②<sup>(7)</sup> \_\_\_\_\_ …十三夜・十五夜などの月齢日に、飲食をともにして月の出を待つ集まり
- ③<sup>(8)</sup> \_\_\_\_\_ …十干十二支で庚申に当たる日の夜、人間の体内にいる三尸虫が、人間が寝ている間に抜け出して天帝に罪悪を報告するので、その夜は仲間と徹夜するという集まり

◇庚申塔（塚）…三尸虫を押さえ込むと信じられた青面金剛などが彫られた石造物



図1 ラクダの見世物



図2 縁日



図3 開帳



図4 富突



図5 庚申塔（塚）